

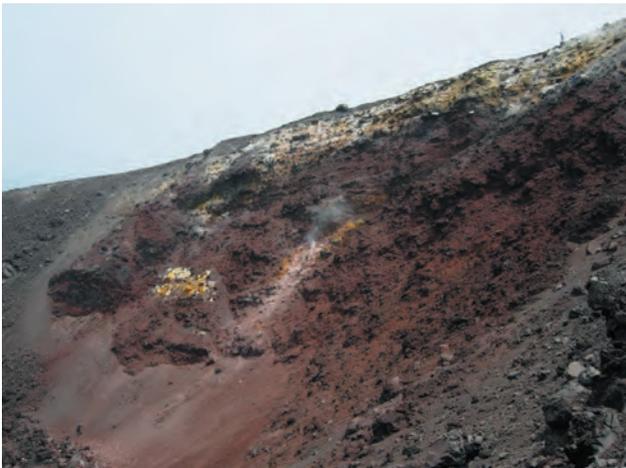
インドネシア・クラカタウ火山の近況

＜下司 信夫・鬼澤 真也＞

インドネシアのジャワ島とスマトラ島間のスンダ海峡にあるクラカタウ火山は、1883年にカルデラ噴火を起こし史上最大の火山災害をもたらしたことで知られている。また1883年噴火後、カルデラの内部に中央火口丘であるアナク・クラカタウ火山が誕生し、成長を続けている。2006年9月に開催された「CCOP第三回火山災害軽減のための野外ワークショップ」の一環として同火山を訪問する機会を得たので、クラカタウ火山の近況について紹介する。



1. アナク・クラカタウ火山、1883年に形成されたカルデラの中に成長を続ける後カルデラ火山で現在は標高約300mまで成長している。



2. アナク・クラカタウ火山の山頂火口。火口底は火山弾で埋まり、火口壁にはストロンボリ式噴火によって形成された赤色酸化したアグルチネートが露出している。最新の噴火は2002年に発生した。



3. アナク・クラカタウ火山の山腹には、山頂火口から吹き飛ばされてきた大きな火山弾が散らばっている。火砕物に覆われた山腹斜面には植物が侵入し始めている。



4. 1883年カルデラによって切断されたラカタ火山の断面。標高差約800mにおよぶ断崖には溶岩や火砕物の積み重なりが露出しており、多くの岩脈が貫いている。



5. 海に流れ込んだ1996年の溶岩流。溶岩流による海岸の埋め立てによってアナク・クラカタウ島は拡大を続けている。



7. クラカタウ1883年カルデラ噴火で発生した津波によって打ち上げられた津波石。ジャワ島西岸のアンイェルにて。手前のレンガの塊は津波によって破壊された灯台の残骸。



6. アナク・クラカタウ島はわずか70年前に海面上に姿を現し、現在も活発な活動を続ける若い火山島だが、その裾野はすでに立派な森林に覆われている。



8. 海岸から100m近くも運ばれた巨大な津波石。長さ約15m。ジャワ島西岸のアンイェルにて。